

てんてい新聞

'18.11 No257
 発行所 市岡日出夫
 発行者 市岡日出夫
 0883-88-5292

何を誰を信じるの？

十月も半ばに近づくと、ウズバキトンボが見かけなくなる。そこでアサギマダラが山から下りてフワリフワリ、そして冬の使者の雪虫が飛び、ツヨリビタギの鳴き声がこぼれ始めると、十度を割る温度になる。

季節が冬へと移るという、世の中も、次々とウソが暴露。大企業、政治家と続く、誰を信じ、何を信じたらいいのぞしようか。
 テムピセラッオでは、今だけ、今日だけの健康食品が毎日の様にCMで売られている。まるで、サガリを飲めば大丈夫なように。



買物しなければ損人であるという様子は、時にさせられる。

本当に、寒々とした社会になりつつあるのではとおもいます。女性活躍の社会どころか、地方創生どころか、聞かぬのよい言葉ではあるが、その実はどうでしょうか。ただ利用しているだけではいけません。

地方創生を言いながら、地方を喰い物にしていく様に、私には見えません。祖谷というブランドに集ったところだけじゃなく、剣山という方向への見えません。

いやむしろ年々、地味は、人口が減る一方、その上、高年令が加速する人口状態。増えているのは、イベントの開催数。それだけ、地味が元気にになり、活発になればいいのですが、どうでしょうか。

本当に、ますます寒々さが身にこみえます。早く、冬眠して行く気分です。

又、世界のニュースでも、ブラジルに極右政権が誕生したり、トランプなども、まるで、アメリカのトランプ大統領に皆さん踊らされるのでもよいでしょうか、信じる何かが失われつつある様にも感じられます。民族や宗教を言いはじめると、ちやんといいなあ。



祖谷の溪谷も、秋色に変わりつつあり、紅葉も美しいです。十一月、剣山に所定の中学生をガイドする機会にめぐまれました。この秋、一番の寒さ、朝の天候にも恵まれ、登山が楽しかったです。その上、この冬の初めに氷が剣山で見られます。ほんとのスキーは山歩きでいい。あとも、ありがたう、ごま。

氷霧に剣山

11月1日

